

相倉 辰徳会員



私の名前は「相倉辰徳」と申します。由来は現在読売ジャイアンツの監督の原辰徳監督と同じ誕生日であり、現役当時、若大将と言われ、とても人気があった様に、みんなに好かれる人になってもらいたいという事から名付けてもらいました。ただ、私も野球をやっていたかというところではなく、私が小学校に入学した頃からJリーグが始まり、野球よりもサッカー人気の方が強かった為、サッカーを選び、今でも趣味として続けています。

また苗字の「相倉」は、全国で30人しかいないそうです。恐らくルーツは、富山県南砺市にある世界遺産にもなっている相倉合掌造り集落からきているのではないかとされています。実際にルーツを探しに現地に行ってみたのですが、残念ながら集落の中では相倉姓の方とはお会いすることはできませんでしたが、集落で一番ご高齢の方を紹介していただいた際に、相倉という苗字だと告げると、「平家の落人様じゃ」と言われ拜まれてしまったので、もしかしたら私の先祖は平家の落人？かも知れません。

現在の家族構成ですが、6年前に結婚した妻と猫1匹と、北区王子で暮らしております。

そしてこれまでの簡単な経歴ですが、2005年に大学を卒業し、人と密に接する仕事に就きたいという気持ちから、人材サービス企業へ就職し、2回の転職を経て現在に至ります。

そんな私の幼少期ですが、生まれは千葉県松戸市ですが、生まれてすぐ引越をしており、中学校にあがるまでは近隣の我孫子市で育ちました。昔は近所に雑木林があり、とにかくその中を走り回ってばかりで落ち着きの無いわんぱくな子供だった様です。小学校に入りサッカーと出会ってからは、サッカーの魅力にはまり、真っ暗になるまで近所の友達とボールを蹴っていた記憶があります。サッカーは中学、高校まで部活に入り続けていました。そして今でも定期的に続ける趣味の一つとなっています。ただ、最近は何重なる暴飲暴食により、大幅に体重も増えてしまったので、ケガに気を付けながら慎重にプレーをしています。

そして中学校、高校と大きなエピソードも無く、部活漬けの毎日を過ごす学生生活を送り、将来の夢も見つけられないまま、大学も指定校推薦で行ける学校という事で選びました。ただ、そんな私が自信を持って誇れることは、周りの人に恵まれたことです。自分が困っている時はいつもそばにいる誰かに勇気づけられ、助けられてきました。その経験から、先程も話しましたが大学卒業後、人と密に接する仕事がしたいという気持ちで人材サービス業界を選び、今があると思います。

最後に、私が代表を務めさせて頂いている会社は、岩本町2丁目にある【株式会社ケンツー】という会社で、人材派遣や業務請負を通して、お客様の人に係るお悩みを解決させて頂いております。また、現在、体育会学生や外国籍人材を中心とした人材紹介にも力を入れており、通常の採用方法ではなかなか出会えない人材も多くいる為、非常に好評を頂いております。人材でお困りの際はお声掛け下さい。

そして最後になりましたが、私ができる事はまだ多くはないですが、クラブに貢献出来る様、精一杯

尽力させていただきますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

神保 宏充会員



今日は、「身近な人から、大切なことを教えてもらった」と感じた私の3つ経験についてお話いたします。

1つ目は、「自ら夢を語る」ということです。私は、神奈川県小田原市で生まれ育ちました。県立小田原高校に入学し、山岳部に入部しました。1年生の秋ころ、山岳部にロータリークラブの交換留学生がやってきました。カナダ人の女性で、シャバーナといいました。ある時、シャバーナと話をする機会があり、お互いの将来の話になりました。シャバーナは私に、「将来何になりたいの？」と英語で尋ねました。私は、「弁護士になりたい。」と英語で答えました。シャバーナは、「それはいいね！」と笑顔で答えてくれました。

私は、今、弁護士をしております。今思い返せば、この時が初めて自分の将来の夢を誰かにはっきりと伝えた瞬間だったように思います。私にとってそんな大切な機会を与えてくれたのが、ロータリークラブの交換留学生であるシャバーナでした。

2つ目は、「自らつながりをもつ」ということです。私の妻は長野県上田市の出身であり、義父は建設会社の経営者でした。妻によれば、義父は以前ロータリークラブに入会していたということでした。ある年の夏休み、私たちは妻の実家を訪問しました。居間に入ると義父はハガキを書いているようでした。ハガキを覗いてみると、「昨日はどうもありがとうございました。これからもご指導のほどよろしく願いいたします。」とわずか数行ではありましたが、丁寧な字で書かれていました。義父は割と豪快なタイプで手紙を書くような人には見えなかったのですが、そのような人こそ、小さなことを大切に、人との繋がりを大切にしているんだと気づきました。それ以来、私はお世話になった人にはできる限り手紙を出すようにしています。

3つ目は、「自らつながりを持ち続ける」ということです。私は、現在は弁護士として10年目を迎えています。最近、ご依頼を受けている事件が、当初の予想よりもさらに解決に時間を要することになりました。依頼者にとっては、解決に時間がかかることは良くないことです。でも、その依頼者の方から、「神保さんと縁が切れないでいられるので、少し安心しました。」という言葉をいただけました。私自身はこれまで、「弁護士は、事件を解決するために存在する。」と考えていました。でも、それだけではなく、相談できる弁護士がそばにいるということが依頼者に安心感を与え、前向きに行動をしてもらうことができるということに気づきました。求められたときに動くだけではなく、「自分からつながりを持ち続けること」の大切さに気づいた瞬間でした。

これまでの半生を振り返ってみると、知らぬ間にロータリアンに出会い、自分が少なからずロータリーの影響を受けていたことがわかりました。ロータリークラブへの入会を認めていただいた今、今度は自分がロータリアンとして少しでも誰かに影響を与えることができるような、そんな人生を歩んでいきたいと考えております。